

Title	都市計画と米国商業会議所 (下)
Sub Title	
Author	根本, 清六
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1919
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.13, No.9 (1919. 9) ,p.1184(82)- 1195(93)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19190901-0082

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

前に於ては米國の銀行は倫敦銀行宛多額の金融手形を振出し、又獨逸の銀行は佛蘭西の銀行に宛て又露西亞の銀行家は獨逸又は佛蘭西の銀行に宛て常に金融手形を振出し低利の資金を利用しつゝありき。

都市計畫と米國商業

會議所 (下)

根本清 六

七

米國に於ける商業會議所の近狀は、略、既述の如くであるが、猶、この種の事業として、看過す可からざるもの、一に、ホーストン運河開鑿の件を加へて置き度い、この運河は、その完成の日に及びては、メキシコ灣頭よりホーストンに達する五十哩は、最大級の汽船をも自由に

通航せしめ得る筈であるが、もと、この地方たるや古は海洋の一部であつたものらしく、土地低濕にして沼澤は至る所にある、而も河川の水は深からずして、舟航の便だも得なかつたのである、處が、千八百七十一年政府は、當運河の整理を企畫し、河幅百呎、深水十二呎としたるが千八百九十八年政府の土地調査局は、更にこれを浚渫擴張するの必要を認め、深水の最淺を二十五呎とせんとし、その工事の一半は千九百九年に成り、深水は平均十八呎に及び、小形汽船の航行だけには毫も支障なくなつたのである。然るに、これより先き、ホーストン商業會議所は河港改築の必要を提唱し、その資料としては、主として英國マンチスター運河の事情を調査した、乃ち、マンチスターとホーストンは、その情勢頗る類似し、前年マンチスターが巨費を投じて、市の繁榮に貢献したる跡は、直ちに、取

つて以て、これに學ぶの趣旨からなのである。

其處で、千九百九年當運河擴張の工事一部成るや、會議所は河幅二百呎、深水二十五呎まで擴張の案を立てた、勿論、その費用は一小都市の負擔としては、寔に鮮小ならざる額なのである、而も、當運河はホーストン市の築港と相並びて計畫せられたるもので、今や、當市は自由港として、その面目を一新し、テキサス州の要港となり、十七條の鐵道を併呑して、これを運河と聯絡せしめ、その周圍十四州の南米貿易の府となつたのである。

ホーストンが西陲の小都邑より起りて、當面の重要都市となるに至れるは、云ふまでもなく商業會議所の力に依るものであるが、又、他の方面に在りても、オクラハマ商業會議所が市勢の興隆に致したる努力に就ては、これを特筆するの必要がある、オクラハマ市は人も知る如く

僅かに二十數年前の開起であるが、目下は七萬五千の人口を有し、特に、千九百年より千九百十年に至る間の進歩は頗る顯著なるものがある、乃ち、千九百年には一萬を出でざりし人口も、千九百十年には六萬五千の多數を示してゐるのである、從て、商業會議所會員の如きも、その初めに當りては、僅かに一千二百名の少數(註、米國の商業會議所の組織は、本邦と根本的の相違ありて米國に於ける會員なるものは本邦に於ける會議所議員選舉有權者に相當するものなり、猶詳細は別に起稿する商業會議所の研究なる拙稿に就て、これを知られたし)を有するに過ぎざりしも、その活動は決して、他の多數の會員を擁するそれに劣らなかつたのである、抑も、オクラハマが一州として認められたるは千九百七年にして、その首府もガズリーなのであつた、其處で、會議所は先づオクラハマを以てこれに代りて、首府たらしめむとし、當面の理由としては、同市の形式、内容共に州第一に改造するの必要があつたのである、乍併、ガズリー

と雖も容易に首府を斷念するものでもなく、亦、他の都市に於ても、獨りオクラハマをして名を成さしむることを快とするものでもない、茲に於てか、全州各商業會議所間に於ける、猛烈なる競争は期せずして起つたのである、然るに、この問題の發動地にして、且つ、最も熱心なるオクラハマ會議所は、市政上に於ては勿論、社會的事業に就ても各競争地に比して、遙に優越せる施設をなしたるのみならず、州府たる位置を占むるの代償として、これに要する巨多の支辯をも承認し、かくて漸くその面目を贏ち得たのである、而も、同市の實力は當時猶かゝる巨多の支辯に堪ゆるまでには進歩し居らず、會議所は百方市民の俠骨に訴え、且つ不足額は同市の公園を擔保として、辛うじてその額を調達することが出来た、而して、會議所はこれに満足せずして、同市より、ウッドワード市に達する、鐵

道布設權の買收をも企てた、同市としてこの權利を買收するの利益は疑なき所なるも、さればとてその費用も尋常ではない、市民が多大の苦痛を忍びて、買收金の贖出を諾するに至つたまでの、會議所の苦勞は、これを察するに餘あるのである。

八

米國に於ては、會議所を以て『都市の兵營』となしてゐるものが多い、蓋し、會議所がその所在地都市の繁榮を圖り、他の都市に對する經濟的攻防の策を案じ、又は、一般財界の趨勢を察知して、以てこれに準應するの途を講ずるの狀は、恰も硝煙彈雨の間に相見ゆる軍旅の動作と多く異なる所ないからである、その一例としては數年前に示されたる、フィラデルフィヤ商業會議所常議員會の宣言なるものを擧げるとが出来る、曰く『諸君は心して、吾人の前に一大事業の

横れるものあるを忘る、勿れ、然り、一大事業とは何ぞや、他なし、都市の優越と市民の教育とこれなり、若し、誤りてこの兩事業にして敗れむか、噫、フィラデルフィヤの繁榮は何の日に加期せむ、長へに落伍者たらむのみ』と、いかに都市と都市との間に於ける、商權の爭奪が激烈であるか、又、これを統率して陣頭に立てる會議所の闘志が、いかに、壯なるかを想見せらるゝのである。

かくの如く、各都市はをのをの自己の優越を誇り、一方、これが手段として住民の増加を圖り相競ふて案内書を出版して、世界的にこれを頒布廣告してゐる、この種の廣告として最も成功せるものは、ボストン會議所が千九百十一年に版行したる、ニウイングランドの現在及將來と題せる一書であると稱せられてゐるが、今、それ等の中に就て、ミルウォーキー商工業組合の

手に成れる一節を引用し、その書き振りの一端を示さう。

衛生。長さ天壽を死の脅迫より遁れ、和樂なる一生を欲するものは、速に來りて、我がミルウォーキーに住め、何を以て然るや、試みに、政府の統計年鑑を繙き、幾百十の都市中死亡率の最小なるものを求めて、その名を記し、我がミルウォーキーにあらずや。

家庭。げにミルウォーキーは住みよき都市よ家庭の都市なるよ、郊外の風光、市域の清楚、そこには俗惡なる何物もなく、ミルウォーキーは家庭の都市なりけるよ。

公園。市域を彩る樹林と、各區の公園とは、清風の訪れ絶えず、街頭の並木は枝を中空に交へて、自ら綠葉の隧道を成せり、ミルウォーキーは林の都市なり、自からなる公園の都

市なり。

交通 ミルウォーキーは大湖畔の要港にして水陸の聯絡最も便なり、西の方平野の物資を満載したる無数の流車は、偏にミルウォーキーを指し、港は三大河口より成り、船渠の延長實に二十哩、その周圍に櫛比する倉庫は常に製造工場の命を待てり、かくて、ミルウォーキーは名實ふさはしき水郷の都市なり。

風俗 ミルウォーキーは社會的秩序と、法律の保護と遺憾なきを以て聞ゆ、風俗の善良なる、犯罪の稀なる、他の都市の企て、及ぶ所にあらず、來れ、而して住みて見よ、神の喜ぶ都市とはミルウォーキーなり。

施設 水道、瓦斯、電氣、電燈等、公共的施設は、最新の學理を應用して、最善の政策に則り、又、その經營者は新企業に満足を與へて、人力可能の勞を惜まず、實にミルウォー

キーは事業界の天國なり。

一寸、こんな調子である、元來、土地と、資本と、原料とは有り餘つてゐて、唯、人の勞力のみ足らざるは米國の現状である、乃ち、人加はれば事業は勃興し、都市は自づと榮ゆるのである、勿論、世界到る所の都市と雖も、その案内書を刊行せざるはなく、既に案内書を刊行したる以上、自己紹介の爲めには、盛なる文字を列ぬるは、當然のことであるけれ共、而も、米國の都市に於けるが如く、移住者招致の術として、人の心を唆る高潮の文字を用ふる所はない、要するに、人口の缺乏が米國共通の事情にしてこれに加ふるに、各都市間の猛烈なる競争を以てするが故に、會議所を初め其他の商工業團體が、滔々相率いで、移民會社の態を學ぶに至れるは、些も怪しむに足らぬことである。

かくて、米國の各都市は種々の新施設をなし

奇警なる術策を講じて、人口の吸収に維れ日も足らざる有様であるが、その結果は、從來全く閑却せられたる社會的事業の、意外に迅速に實行せらるゝものあり、或は、交通機關の普遍的改善となるものあり、又は、家屋の分布、構造等に學者の説を用ふるに至れるものあり、その他、上水、下水、瓦斯、電氣料金の低下せられたるものあるなど、眇たる小都邑に於てすら、他國の大都市にも劣らざるの態裁を備ふるものあるに至つた、商業會議所が、この運動のリーダーたるは云ふまでもなく、その調査課の如きは、常に他の都市の文明的施設を比較研究してこれを怠らず、汲々として猶及ばざらむことを恐れてゐる、この一事に關しては、紐育商人組合委員の報告書を引用して、その説明に代ゆることとする、當商人組合の事業は、頗る廣汎多岐なるものであるが、就中、新企業を紐育に誘致

し、これに對して最善の助言と、有力なる後援とを與へ、これが健全なる發育を遂げしむるを以て、第一義と定めなければならぬ、凡そ、新企業の土地を選定するは、單にその地が便利なるが爲めのみではない、その土地の住民が、新企業に對して好感を以てこれを迎ふるや否や或は經濟的補助條件が遺憾なく具備せるや否やに依て、決せられるのである、果して然らば、當商人組合は事の新企業に關するものは、その種類の如何を問はず極力便宜を計り、援助を惜むではならぬ、かくありてこそ、紐育の實力を増大す可き企業は自ら加はり、當商人組合の利益は、長く保證せらるゝのである、これと同時に、當組合は又、經濟的興亡の岐るゝ所以は、業それ自身にあらずして、これを經營する人そのものに在ることを、記憶しなければならぬ、而して茲にこの人的要素の缺陷を補填せむが爲

めには吾人は集合の力を以て、智識の向上を圖るの必要を認むるのである、かく、綜合したる智識を以て新企業者の爲めに、權威ある指導機關たることを期さなければならぬ』

九

米國に於ける商業會議所が、漸く、當面の事業たる商工的運動の埒を超え、都市問題の解決に向つて、その歩を進め、就中、人口増加と企業助長とに對して精力を集中せる傾向、最も顯著なるは以上述べ來りたる如くであるが、その具體的一例としては、ポストン商業會議所が、率先して、インダストリアル・プロダクション・コンパニー企業振興會社を起したるが如きは、その適證である、乃ち、同會議所は企業作振の一策として、遍く新企業の懇篤なる顧問を以て任じ、一旦、有望なる事業と承認したる上は、右の會社をして信用上の保證を與へしむるのである、その方法は、先づ企業者をして

會社所定金額の拂込をなさしめ、萬一、その事業の成績面白からずして、失敗を招きたる時はその金額の十倍を限度として、會社自ら債務を負擔す、その状は、恰も保險掛金と、事故發生の場合とに於けるが如きものである。

シンシナチ商業會議所にも、亦その産業部内に更に市内産業調査課を置き、原料、運賃、市況に關しては勿論、その他の社會事業に就ても從來に比して、一層精細に調査して常にこれを整理し、何時、何の問題に關しての質問にても、立所にこれを解説して、市民に満足を得せしめてゐる、素より、この事たる巨多の費用と、日子とを要するのではあるが、亦、これが爲めに利益を蒙るものは、獨り商工業者のみならず、勞働問題、生活問題、階級争闘、犯罪事件に涉りて、社會研究家、經濟學者、政治家、宗教家、教育家に對しても、極めて有力なる資料を供提し

て、世道人心の改善に益する所、寔に尠くないのである。

都市競争の結果として、更に、注目す可きことは、最近、市民會合の著しく増加せることである、近年、米國に於ける、この種の市民大會は年々その開會數一萬八千回を超ゆると云ふことである、而して、大會の效果としては、民衆に秩序的訓練の機會を與へ、公益の觀念を向上せしめ、偏頗なる競争を排斥せしむるなど、種々の方面に現はれてゐる、茲に公益の觀念と云ひしは、都市を中心とする、住民の最大多數の最大幸福の義であるが、その傾向は、至る處の商業會議所及びその傘下にある商工業團體に於てこれを認むることが出来る。

乃ち、ポストン會議所は、同市内の交通業者旅館業者、その他の同業者組合會議に参加してその牛耳を執れるのみならず、米國內に於ける

殆むど有ゆる重要會議に列席して、その意見を開陳し、苟も市民の福利は、寸毫の微と雖も、これを逸せざるの概を示してゐる、又、一層都市競争を露骨に發現したるものは、一旦、國內重要會議開催の決するや、ポストン會議所は毎

に、自己の都市を以て、その開催地に自薦運動をすることである、この事に就ては、同會議所の年報自らをして語らしむることにする、曰く『各都市が、虎視眈々として、會議の開催地を争ふの秋に方りて、當會議所が能くこれを誘致し、當市を以てその開催地となすの光榮を得たるは素より内部に潜在せる篤志家ありて、有形無形の犠牲を辭せざりしに因るものにして、當會議所はその人々に對しては、深厚なる謝意を表すと共に、亦、その人々の市政に忠實なるを推奨するものなり』と、尠たる一時的會議の位置を奪に就てすら然り、況むや、それ以上の問題に

及むでは、商業會議所を中心として、各都市間の競争がいかに猛烈なるか、かのライアン、リチー氏をして『今や、各都市間の競争はその度を失して、思慮の平靜を缺けるやの感なき能はず、徒に巨費を投じて、僅かに會場地を誘致したりとするも、遂に何事かあらむや、かくの如きは手段と目的とを錯誤したるのみ、却て弊害を胎すものなくむば幸なり』との、嘆聲を發せしむるに至つた、而も、その競争は日々に白熱化するのみである、今、次にニウワーク對紐育事件及びポストン港灣問題を引用して、その顯著なる二三の例を示さう。

一〇

千九百三年紐育商人組合は、時の陸軍卿ルート氏に對して、パッセー河に架せる各鐵橋を、一日中、午前及午後の兩度、三十分間宛、全部これを遮斷し、以て汽車の交通を杜絶せしめ、

同時に又、水上の交通もこれに準じて、この時間中は、これを中止せしめむことを請願した、而して、その理由とする所は、これに依りて交通機關の雜沓を整理し、途上及び水路の危險より遁がれむとする事であるが、かくの如きは勿論表面の理由に止まり、その真相はかくして幾百船車のニウワークに直通するを妨げ、以てその間に乘じて、利せむとするに外ならなかつたのである、紐育のかゝる計畫に對して、對岸なるニウワークが黙止す可からざるは云ふまでもなく紐育のこの舉を探知するや、ニウワーク商業會議所は、これ市民存亡の大事なりとなし、直ちにワシントン會議所と提携して、紐育に對陣し、遂に勝を法廷に制したのである、但し法廷に於ける判決文には『若し、交通を整理し、雜沓を防ぐの目的なりとせば、直ちに橋梁に適當なる改築を施し、河川の必要なる浚渫を試む可し、豈

寸時と雖も、交通の自由を阻止するを得むや』とありて、紐育商人組合の畫策は一度びは全く蹉きたれ共、隱忍四春秋、千九百七年には、又々同一の請願を陸軍卿タフト氏に提出したのである、而も、前回の失敗に鑑みて、固く秘密を期し、暗中の大飛躍を試みたのであるが、事の將に成らむとして、亦々功を一簣にかいた、その間にける兩都市の競争がいかに機敏なるかは紐育商人組合再舉の第一報がニウワーク商業會議所に達したる、その二十四時間後にはニウワークの委員は早くも既にワシントン府のタフト陸軍卿と一堂に會見して膝詰談判を開始してゐたこの一事を以ても知らるゝのである。

一一

更に、前述のニウワーク市紐對育市抗爭に類するものとしては、ポストン港灣問題がある、もと、この問題たるや、單なる港灣そのもの、

築營としてよりは、これ亦、例の都市競争の一現象として取扱はる可きものである、乃ち、ポストンが港灣の完成を以て、覇を紐育と争はむとするの心を懷くや、夙に久しくして、今や、かゝる問題には常に先頭に立つ會議所の提案によりて、猛然として奮い起つたのである。素より、ポストン市はその地勢上より云へば對歐並に對南米の貿易に就ては、頗る有利なる地位を占め、大に發展す可き經濟的要素を有するのみならず、市の實力も亦この天賦の利權を發揮するに充分なるものがあるとは、市民の深く信じてゐた所である、かの會議所が最も費用を要すること本問題の如きもの、解決に、敢然として決する所あつたのも、實は後に市民のかゝる信念を背景としてゐたからである、かくて會議所の計畫に基きて、千九百十一年には臨時築港期成會を設け、防波堤、棧橋、埋立地、海陸

接續機關等の調査一切を擧げて、これに附託するまでに進むだ、その成案を見るに、原案よりは却て規模を擴大し、從て豫算も著しく増額してゐる、一方、會議所内より四名の委員を擧げ委員は九百萬弗の範圍に於ては、何物の制肘をも受けることなく、自由に活動し得るの權能をも得て、その第一着手としては、アメリカハンブルヒ汽船會社と交渉して、その寄港地の中に加へしめ、次で、紐育、ニウヘブレン、ハートフオード鐵道等に、これまで手数料を徴して使用せしめたる、棧橋を改脩して同汽船會社の專用に移した、因に同棧橋の工事は千九百十三年に及びて、その過半竣成した、委員は更に、市外西ポストンに乾船渠を建設し、又、東ポストンにも大棧橋を設け、茲に於て、ポストン港灣問題の解決も殆むと剩す所なきに至つたのである、乍併、この無比の良港を如何にして活用す可き

かの大問題は、相次で商業會議所内に起り、會議所の意見としては、先づ廣くこれを内外に周知せしむるに在りとなし、恰も、當時開催せられたる國際的商業會議所會議を利用してこれに列席し世間の視聽を惹きたるのみならず、百方運動の結果は次回の會議場をポストンに指定せしめた、これ實に國際的商業會議所會議の、米國に於て開かれたる嚆矢である、而も、市勢の伸張に熱心なること火の如きポストン會議所は、猶、これに飽き足らずして、廣告的歐米旅行團を編成して、歐山米水の至る處に廣告を試み、その成績は頗る佳良にして、同地に開かれたる國際的商業會議所會議の際には、能く四十四個國家、五百五十都市より八百五十名の代表出席者を誘致することが出来たのである、又、特に南米に對しては、南米訪問隊を派遣して、三個月に彌りて、一萬六千哩を遍歴し、南米の天涯

地角に向て、ポストンの印象を牢記せしめたのである。

ポストンのかくの如き白兵戰に挑まれたる、紐育が又舊態を墨守して、これに安むすることなきは當然である、當面の問題たる港灣改良の聲は期せずして起つた、今、千九百十三年會計年度の統計に依れば、紐育の輸入率は全國の五割八分を占め、その輸出率の如きも、ポストンと比せば正に十三倍の額を示してゐる、實に商勢隆々たる紐育が、列環都市の間に君臨するの狀は目醒しきものであるが、事の頗る大なるだけそれだけ自づと惰氣を生み易きことも事實である、而も、爛熟したるが如き大紐育市の財界が面のあたりポストン商業會議所等の、挑戦に會して活躍するの秋が正に來たのである、その商業會議所が、これと對立して港灣問題の陣容を整へ、不屈の意氣を示したのは、それより間も

なきことに屬してゐるのである。

(附記) 都市計畫問題に關して、米國各商業會議所が、いかに活動せるかの要領は、この抄録によりて、これを略知することを得たりと信ず、更に、詳細に本問題を研究せむとする人々の爲めに、原著を記述して、以てこの小篇を了る可し、原著は Williams College の Department of Political Science の爲めに、印行せられたるものにして、千九百十五年の出版に係り American Chambers of Commerce を題し Kenneth Surges の著作なり、本邦の書林にても持合ある筈なり。

經濟的史觀論の價值 (四)

野村兼太郎

五

一概に社會主義と稱すると雖も、其の理論の據る所に依つて、互に其の説を異にす。マルクス以前に於ける空想的(Utopia)社會主義は暫く